平成 29 年度研修員　河合裕司さんの声

プロフィール

大学学部にて国際開発学を学んだ事がきっかけとなり、国際協力に関心を持つ。学部卒業後は英国の大学院にて平和学修士を取得。その後、企業と NGO を経験した後、2018 年にプライマリーコースに参加。海外実務研修では International Organization for Migration (IOM)のウガンダ事務所に派遣され、南スーダン人及びコンゴ人難民居住区における水と衛生支援事業及びモニタリング・評価を担当する。海外実務研修後は職員となり引き続き IOM ウガンダにて従事。

１．平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

大学学部にて国際協力と途上国の貧困、紛争について専攻していた頃から国際協力のキャリアを目指してきました。学部卒業後に進学した修士課程では平和構築や紛争解決を研究し、卒業後、NGO でのインターンと企業にて社会人経験を積んだ後、NGO 職員として国際協力のキャリアを歩み始めました。NGO では日本本部を拠点に広報、ファンドレイズ、海外事業の支援と幅広く従事し、海外駐在ではウガンダにて難民支援と、スリランカにて開発支援に従事してきました。

平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業については「寺子屋」として大学院時代より存じており、国際機関で働く機会として以前から興味がありました。その後、スリランカ駐在中に結婚と娘の誕生という大きなライフイベントがあり、娘が大きくなる前に、また自分もまだ若いうちに一度国際機関にチャレンジしてみようと決心し、本コースに応募しました。

２．国内研修に参加した感想は？

今までに数々のトレーニングや研修を受けたことがありましたが、本コースのように６週間も合宿にて、かつ世界中から経験豊富なエキスパートを招いた参加型の研修は今後受けられる機会がないかもしれない、そう思えるほどリッチな内容でした。国内研修では講義とワークショップ、そして研修員と講師陣を交えたディスカッションを通じ、幅広く開発や緊急支援、そして平和構築に関して学べる研修でした。国内研修後の海外実務研修に向けてしっかりと基礎を磨けたと思います。

また、国内研修では同僚（研修員仲間）にも恵まれ、企業や NGO・開発コンサルタント、大使館経験者、はたまた国連ミッションや政府にて平和構築に既に従事している平和構築経験者もおり、講師の方々だけではなく同僚からも多くの知見や経験を学ぶ事ができました。毎週水曜日にはチームビルディングと称して講師・研修員と共に懇親会をしていたほど仲の良いチームだったと思います。もちろん今でもフェイスブックにて連絡を取り合っています。

３． 海外実務研修での活動について教えてください。

海外実務研修では、世界的な人の移動の問題に関して支援をする国連関連機関、International Organization for Migration (IOM)のウガンダ事務所に配属され、NGO 時代にも経験があった難民への水と衛生(Water, Sanitation and Hygiene, 通称 WASH)分野での支援事業を担当することになりました。配属されたとき、WASH チームはフィールドスタッフ３人とカンパラ本部２人（私を含め）の僅か５人でウガンダ北部と南西部にある３つの難民居住区の WASH 事業を回しており、着任早々にドナーへの中間報告を書くことになるほど人手不足でした。

WASH 事業とは、数ある緊急・開発支援のセクターの一つです。他には食料、シェルター、医療、プロテクション等のセクターがあります。WASH の代表的な支援方法は、①Water-安全な水の供給、施設の建設②Sanitation-トイレなど衛生設備の建設③Hygiene-衛生知識の啓発活動や石鹸など衛生アイテムの配布で、この３つを通じて難民キャンプなど、不衛生な環境で感染しやすい下痢やコレラ等の感染症を防ぎ、人々が最低限健康的に生活ができる環境を作ることを目的としています。IOM ウガンダの WASH 事業では、計４つの南スーダン人およびコンゴ人難民居住区にて、数万人が裨益する大型給水設備の建設や、トイレやごみ処理設備の建設、そして衛生知識の普及活動と衛生アイテムの配布を行なっていました。

衛生普及員の活動記録をモニタリング

業務内容に戻りますが、私が担当した業務は多岐にわたりました。それぞれのフィールドオフィスの後方支援（ペーパーワーク）の他、ドナーへの事業計画書（プロポーザル）の作成や、難民受益者へのサーベイ（アンケート）の実施、中間・完了報告の作成、調整会議への出席、難民居住区へのモニタリング出張など、WASH 事業の中心的な仕事にも携わることができました。その後、同 WASH 事業の Monitoring and Evaluation (M&E)Officer の役職に任命され、主に事業進捗のモニタリングや評価等を担当することになりました。IOM での仕事を

建設した５万リットルの給水タワー

通じ、日本研修で学んだ事業マネージメントの内容など、日々の業務に非常に役に立っていると思います。

また、幸運な事にウガンダへは私以外に２人もプライマリーコースの日本人の同期が他機関に赴任しており、時折カンパラにて集合して仕事やキャリアの情報交換や相談をしていました。

４． 海外実務研修での感想は？一番印象に残っていることは？

IOM ウガンダでの海外実務研修は赴任開始直後からトップスピードで駆け抜けてきたように思います。中でもドナーへの完了報告書と事業計画書の時期が重なった時期は、WASH チーム一丸で会議室を占拠して夜遅くまで作業をし、家に帰っても同じコンパウンドに住んでいたドイツ人の上司と２人でテーブルを囲み共に書類を書き上げました。忙しくはありましたが、提出時の達成感は忘れることができません。

小学校に建設した小規模給水システム

また、海外実務研修には IOM ウガンダ内外の多くの人と出会うことが出来き、上記のドイツ人上司をはじめ、事務所長、ジュネーブ本部の方達にキャリアや家族と仕事のバランスやキャリアについてのアドバイスとサポートを頂くことが出来ました。海外研修中には出来るだけ多くの方々と交流をするのが重要だと感じました。

５． 今後のキャリア・プランを教えてください。

私の場合、海外実務研修(UNV)後は同ウガンダ事務所の他部署に配属され、日本政府資金の事業にスタッフとして参加することになりました。本事業では Project & Monitoring and Evaluation Officer として、コンゴ-ウガンダ国境を行き来する難民等の移動のモニタリングの他、エボラが蔓延するコンゴ東部の国境に近い現地コミュニティ及び地元政府の感染症予防のトレーニング、そしてウガンダ政府の国境管理の能力強化を図ります。

IOM のスタッフになれたのも何かのご縁、今後も IOM でのキャリアを継続し、世界中で難民・国内避難民を含む移民の方々の支援を続けていきたいと思っています。特に Monitoring and Evaluation (M&E)の仕事は WASH だけではなく幅広い事業に使えるスキルですので、まだまだ未熟ですが、今後も経験と技術を積んでいき、この分野のエキスパートになりたいと思っています。

６． 事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

これを読まれている方の中には家族がいてプライマリーコースへの参加を検討されている方もいらっしゃるかと思います。海外実務研修中は家族同行ができなく、少なからず離れ離れ

の生活を覚悟しなければなりません。一方、年休暇が一年に30日もあり、かつUNVから家族手当も支給されるため、帰国費用も容易に賄えます。私の場合は４カ月に１度、２週間ほど帰国しましたが、２カ月に１度、１週間程度の休暇で帰国することもできたと思います。家族との連絡は時差の関係で平日は難しいこともありましたが、土日には家族とビデオチャットをすることもできました。

最後に、国際機関に入るにはJPOからだけではなく、UNVから入る人も実際には多くいます。国際機関を目指す人には一度トライしてみる価値のある投資だと思います。